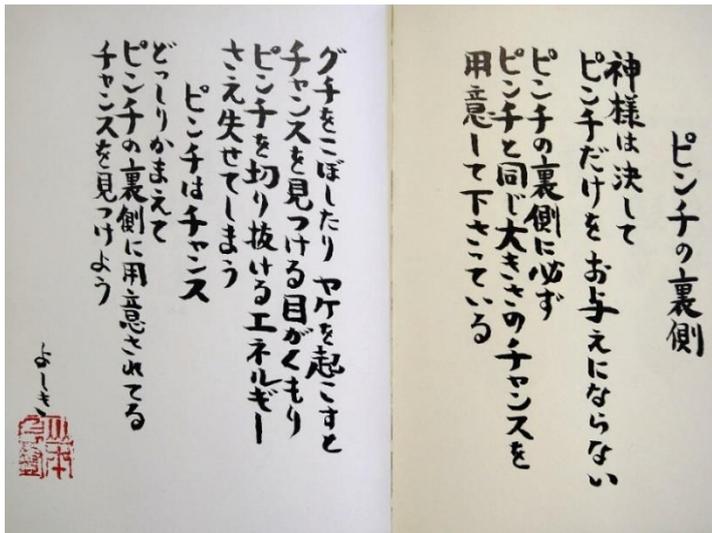




いよいよ、子どもたちが楽しみにしていた夏休みが始まります。子どもたちには有意義な時間を過ごしてほしいものです。ここで、提案したいことがあります。それは、この長い休みを利用して本を読ませましょう。これから、生きて行く上で大切なことが得られるはずです。

ピンチの裏側



みなさんは、左記の詩を読まれたことがあるでしょうか。

熱心な高校野球ファンの人は覚えておられるかもしれません。

2007年、夏の甲子園で佐賀県立佐賀北高校が8回に逆転満塁ホームランという、奇跡的な逆転で優勝しました。この詩は、その佐賀北高校野球部部室に書かれていたものだったのです。

(詩集「ピンチの裏側」 山本よしき著 青志社)

選手たちは、暑い日や寒い日、毎日の厳しい練習の後に部室に帰り、この詩を読んで元気づけられたことでしょう。甲子園での奇跡の勝利は、まさに「ピンチの裏側にチャンスがある」を現実にしたものでした。

得てして、私たちはピンチが来た時にはピンチに立ち向かうことに腰が引けてしまいがちになり、なかなか、ピンチの裏側にチャンスが隠れていることに気づきにくいものです。しかし、佐賀北高校の選手たちは、ピンチの時もチャンスが訪れることを信じ、日々の厳しい練習で鍛えられた肉体と精神で立ち向かうことで、見事勝利を手にすることができました。そして、試合を見ていた私たちにも、「奇跡は起きるのだ」と教えてくれ、感動と勇気を与えてくれたのです。

ご家庭で、子どもと一緒にこの詩を読んでみましょう。自分で読んで、理解できるようであれば、この詩を読むように勧めてみましょう。きっと、子どもたちがピンチに出会ったときに、この詩のことを脳裏に浮かべることができれば、諦めることなく立ち向かうことができるのではないのでしょうか。

※「禍福は糾^かえる繩^{ふく}の如^{あざな}し」という言葉があります。“災禍^{さいか}と幸福^{あざな}とは糾^よった(縊り合わせた)繩のように表裏一体であり、一時のそれに一喜一憂しても仕方がない”という意味です。簡単な言い方をすれば、世の中、悪いことばかりではない。良いこと、悪いことが交互に訪れるということでしょうか。悪い時には(ピンチの時には)じっと耐え、良いことが起きるまで(チャンスがくるまで)待つことが大切なのでしょう。